

ホーリーランド基金公判とインド同時多発テロ経緯

2008年11月30日 アシエル・イントレーター師

今週、2年に渡る苦闘の公判の結果、アメリカ合衆国テキサス州ダラスの連邦陪審員12名はホーリーランド基金(HLF)と5名の指導者に対して102の犯罪活動の訴因に対し有罪判決を下しました。

ナショナル・レビュー誌はこの有罪判決を「司法省の忍耐力の証」と説明しています。検察側はパレスチナ当局でさえ HLF はハマスの資金調達部門であるとみなしていることを証明することができたのです。この訴訟はテロ組織に資金援助を禁止するアメリカの反テロ法に対する重要な確約を表しています。

「現代聖戦主義の知的戦線である「イスラム教結社」はアメリカで結成され、「パレスチナ委員会」はイスラエルを破壊し、ヨルダン川から紅海までイスラム国家を設立するハマスの目標を推進する機関である。」HLFは委員会の主要な資金調達機関であった。それは1200万ドル以上をヨルダン西岸地区とガザにあるハマスが統括する団体に送金した。」

「聖戦の目標は海外のテロ活動を支援するだけではない。それはイスラム主義のイデオロギーを推進しアメリカや西洋社会にイスラム教法体制を徐々に導入させることにある。この政策は、自身を人権活動団体として提示し、イスラム教団体による政治的な実力行使によって追求するのである。」

ダラス・モーニングニュースはこれを「資金の流れは効果的にせき止められたと思われていても、テロリズムへの資金援助に対して裁判で戦う試みは問題続きであったジョージ・W・ブッシュ大統領政権の主要な勝利である。」と説明しています。

私たちの特別な感謝は、この公判のために祈りの戦いを導き、裁判所に毎日出廷して情報を集め、祈りのグループを組織してきたドナ・Dさんに捧げます。

インドのテロ攻撃

今週インドのムンバイで起こった悲劇について、**イスラエル・ヘブル・プレス**と他の国際報道機関からの調査レポートを抜粋します。

1. 9月24日:インドのデリー駐在アメリカCIA指揮官はインド防衛司令官と会見し、パキスタン人テロリストが基地で街の状況をシミュレートし、沖合のボートの中で訓練し、海からムンバイを攻撃する可能性を示唆していると報告した。

2. 11月18日: インドの防衛部隊はインド沿岸警備隊に警告を發し、カラチ方面からの疑わしいパキスタン人のボートを警戒するように命じた。
3. 11月21日: 10名のテログループはカラチからボートに乗って出發し、その際に武器弾薬を入手した。
4. 11月22日: 別の2名のテロリストたちがムンバイにあるタージ・マハル・ホテルの630号室にチェックインし、そこに弾薬を保管した。
5. 11月23日: カラチからボートで来たテロリストグループはインドの漁船を乗っ取り、4人の船員の喉をかき切り、船長にムンバイに向かうように命じた。
6. 11月26日: グループはムンバイ沿岸に到着した。テロリストたちは3隻のゴムボートに移乗し岸に着けた。10人は4人、2人、2人、2人の4チームに分かれた。4人のチームはタージ・マハル・ホテルに向かった。2人はユダヤ教の「ハバッド・ハウス」に向かった。2名はタクシーに乗ってシヴァジ駅に向かった(そこで彼らは混雑した駅で罪のない旅行者に向かって銃を乱射し手榴弾を投げた)。2名はオベロイ・トライデント・ホテルに向かった。
7. 11月27日午前11時: 「ハバッド・ハウス」のある一室で一晩隠れていたインド人の家政婦であるサンドラさんは幼いモーシェ君を抱きかかえ、無事に脱出することができた。モーシェ君は11月28日土曜日に2歳になる。その時、彼の両親であるラビ・ガブリエル・ホルツバーク師と妻のリベカさんはすでに殺されていた。
8. 11月28日: 逃げようとしていたアザム・アミール・カサブは捕らえられ、彼以外のテロリストは全員殺された。カサブは、彼と彼の同士たちはなるべく大人数の人を無差別に殺すことを計画しており、特に白人の外国人とユダヤ人を狙っていたと白状した。
9. カサブはまた、テロリストたちは作戦全体通してインドの大富豪と闇市場の企業家であるダウド・イブラヒムによって支援されていたことを白状した。イブラヒムは過去アルカイダの作戦の主要支援者であったという。
10. これらの一晩10個所に及ぶ連続攻撃により、195名の犠牲者と327名の負傷者が報告されているが、これはインドでは決して特別な事件ではない。アメリカの世界貿易センタービル攻撃以来、以下がインドで知られている数々の攻撃である。
 - a. 2001年10月1日: カシミール議事堂—35名の犠牲者
 - b. 2001年12月13日: デリーの国会議事堂—7名の犠牲者
 - c. 2002年9月24日: アクシャルダハム寺院—31名の犠牲者
 - d. 2003年3月13日: ムンバイでの旅客列車—11名の犠牲者
 - e. 2003年5月14日: ジャム—陸軍キャンプにおいて女性と子ども合わせて—30名の犠牲者

- f. 2003年8月25日:ムンバイで自動車爆破—52名の犠牲者
- g. 2004年8月15日:アッサムの小学校の子どもたち—16名の犠牲者
- h. 2005年10月29日:デリーの爆破事件—70名の犠牲者
- i. 2006年3月7日:ヴァルナツシ駅—21名の犠牲者
- j. 2006年7月11日:ムンバイの夕方ラッシュアワー中の列車—209名の犠牲者
- k. 2006年9月8日:マレガオンでの爆破事件—37名の犠牲者
- l. 2007年8月25日:ハイデラバードのレストラン爆破事件—42名の犠牲者
- m. 2008年5月13日:ジャイプールでの爆破事件—63名の犠牲者
- n. 2008年7月26日:アフメダバードでの爆破事件—29名の犠牲者
- o. 2008年9月13日:デリー市場での爆破事件—21名の犠牲者
- p. 2008年10月21日:イムハルでの爆破事件—17名の犠牲者
- q. 2008年10月30日:アッサムでの爆破事件—77名の犠牲者

イスラム教の聖戦は調整され、計画を立てられ、そして十分な資金援助を受けた国際的な活動です。その目的は西洋文明を破壊し、クリスチャン宣教師を殺し、イスラエルを破壊することです。それはイスラム教の宗教的な教化に深く根付いているものです。恐怖は聖戦の一部であり、聖戦はイスラムの一部なのです。

オバマ次期大統領のこの攻撃に対する言葉による軽い非難は、この世界的な災難を抑制するのに必要な種類の抵抗に達していません。イスラム教が世界各地でこの狂気から向きを変え、イエシュア(イエス)の恵みを見出すことができるよう祈りましょう。また、世界中の政府、軍部、警察指導者がテロと戦うことができるようお祈りしましょう。